

まほろば秦野通信

平成30年3月8日

タイトル	秦野市行財政調査会の各部会から報告書を市長に提出
When (いつ)	3月13日(火曜日) 午前10時半～
Where (どこで)	秦野市役所 西庁舎3階 災害対策本部室
Who (だれが)	秦野市行財政調査会 行財政経営専門部会 部会長 齊藤 進 氏(産業能率大学 情報マネジメント学部 教授) ※行財政調査会 会長 秦野市行財政調査会 行革推進専門部会 部会長 茅野 英一 氏(帝京大学 経済学部経済学科 教授) ※行財政調査会 副会長 秦野市行財政調査会 行財政最適化支援専門部会 委員 坂野 達郎 氏(東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授) ※行財政調査会 副会長 その他委員7名が出席の予定
What (なにを)	<ul style="list-style-type: none">・行財政経営専門部会から、「人口減少・少子高齢化等に向けた秦野市の行財政経営のあり方 中間報告 2018」を提出 【報告書の概要】 人口減少や少子高齢化による「縮小」と併せ、生活の「充実」を図る「縮充のまちづくり」に向け、秦野市の将来像を市民と共有し、地域で育て、ともに考え、実践する「まちづくり(創・造)」を目指すべき。・行革推進専門部会から、「第3次はだの行革推進プラン実行計画平成28年度進行状況等評価結果報告書」を提出 【報告書の概要】 人口及び税収が減少する中、行政は負担の公平性に留意し、地域資源を生かして課題解決に当たるべき。実行計画は目標設定を徹底すべきである。また、「『公の施設』の運営」は、行政サービス全体の中で施設運営というサービスをとらえ、長期修繕計画、収支、利用動向を合わせてビジョンを描くべきである。・行財政最適化支援専門部会から、「平成29年度行財政最適化支援報告書—秦野名水のブランド活用について—」を提出 【報告書の概要】

まほろば秦野通信

	<p>秦野名水を固有の地域資源として位置付け、統一的な活用戦略を共有し、市民の郷土愛等の醸成や個別商品のブランド力の強化を図るべきである。</p>
How (どのように)	<p>各部会において、平成29年度に審議をした内容について、市長に報告するものです。</p>
Why (なぜ)	<p>行財政経営専門部会では、今後の人口減少・少子高齢化社会に向けて、秦野市がどうあるべきかについて、審議を行っていただいていたところです。任期中間ということで、「中間報告」市長に報告書を提出します。</p> <p>行革推進専門部会では、「第3次はだの行革推進プラン実行計画」全体に対する平成28年度実績（計画期間初年度の実績）を踏まえた評価と、テーマを設定（今回は『公の施設』の運営）して個別的な評価を行い、市長に報告書を提出します。</p> <p>行財政最適化支援専門部会では、事業支援の観点から各施策の最適化を図るものです。平成29年度のテーマは「秦野名水のブランド活用」として、市長に報告書を提出するものです。</p>
過去の実績	<p>財政調査会としては、毎年度報告をしていますが、3部会制となり、初めての報告となります。また、高橋市長に対しても初めての報告となります。</p>
今後の取り組み	<p>評価報告書を踏まえ、今後、市として方針を決定し、ホームページで公表する予定です。</p>
問い合わせ	<p>政策部 行政経営課 行政経営担当 北口 慶太 電話 0463 (82) 5102 Fax0463 (84) 5235 E-mail : keiei@city.hadano.kanagawa.jp</p>